

## 実践的コミュニケーション能力の育成を意図した「書くこと」の指導

外国語 ライティング 普通科 第3学年  
石川県立鹿西高等学校・教諭

### 1 事例の概要

ライティングの授業においては、単に和文英訳等の演習形式で「書く」だけに終始するのではなく、読み手に伝えることを趣旨とした英文を書く活動を行うことが必要である。本校では、与えられた語句や表現を用いた基本的英文を書くことはできるが、一定の表現を用いて自己について述べることまでは到達できていない。そのため、「書くこと」を重視しながら、「話すこと」、「聞くこと」と有機的に関連づけた活動を行うことにより、いかにライティングの指導効果を高め、「書くこと」に対して主体的に取り組む態度を育成することができるかを試みた。

### 2 実践内容

#### (1) 目標

- ・スピーチで使用される基本表現を用い、一定のテーマに基づき、自分の考えを書く。
- ・自分の考えを積極的に表現する態度と、発表者の考えを聴き、その内容を理解しようとする態度を身につける。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 諸活動の目的、効果の明確化

各活動の目的および効果を生徒に理解させた上で、積極的な活動を促す。

##### ② 基本表現の習得

各基本表現をディクテーション、パターンプラクティス等の基礎練習で習得するだけでなく、ALTによるスピーチの範例を聴くことにより、その運用についても理解する。

##### ③ グループ活動

ア ペアワークおよび少人数（3～4名）でのグループ活動を取り入れ、短時間に全生徒が多くの活動を行う。

イ 各少人数グループでスピーチのリハーサルを行うことにより、リラックスした状況で活動し、お互いのスピーチについて助言および指摘できる雰囲気を作る。

##### ④ スピーチ原稿の校正

スピーチ原稿の訂正すべき箇所を教師が指摘し、繰り返し生徒が校正することにより、各表現と文章構成力の定着を図る。

##### ⑤ スピーチの暗唱

各英文の最初の語だけが記載された用紙の補助的な使用を認めることにより、過度のストレスを与えず、スピーチに不可欠な話し方および態度についても注意を払わせる。

##### ⑥ 自己評価と他者評価

ア 発表者はスピーチ終了後に自己評価を用紙に記入し、自己反省をする。

イ 発表者のスピーチに対する評価を用紙に記入することにより、集中して各スピーチを聴くようにする。また、各話者はその評価を自己反省のために参照する。

### 3 指導の実際

生徒の学習活動	教師の指導・支援
1 基本表現の復唱 理由を述べるときの基本表現を復唱する。	・ Because S V, …などの基本表現を提示し、復唱させる。
2 ペアワーク 英文を聴き、空所に適切な語句を書く。その後、聞き手は読み手の英文を復唱する。	・ 英文を音読し、because、as、for、these daysなどを空所に書き取らせる。 ・ 各ペアの指導および助言をする。
3 語彙と表現の確認 職業に関するスピーチを聴きながら、そのスピーチで用いられた語彙と表現をワークシートのリストから選ぶ。また、語彙および表現に関する説明を聞く。	・ スピーチを読んだ後、そのスピーチで用いられた語彙と表現を生徒に答えさせる。また、語彙および表現について説明する。
4 原稿の校正 将来の職業に関する英文の初稿を提出する。助言に沿って英文を修正し再提出する。	・ 将来の職業について書いた英文課題を提出させ、直すべき箇所を示し、返却する。
5 グループ活動 グループ内でスピーチをし、助言しあった後、自分の原稿を再度校正する。	・ 各グループ活動を指導、助言する。
6 スピーチ 各発表者のスピーチを評価すると同時に、その内容を書き取る。発表者も、スピーチ終了後に自己評価をする。 (C-2、C-3参照)	・ 各スピーチを評価し、各発表者への助言および全体講評をする。

**C-1 指導案**

**C-2 評価シート**

**C-3 内容確認シート**

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ① スピーチに関する基礎表現が定着し、定期考査においては、全員が7文以上を用いて「職業観の変遷」について自由英作文を書くことができた。
- ② 生徒が主体的かつ積極的に活動し、授業ごとに生き生きと自己表現するようになった。
- ③ ライティングの実践的な活動を通して、生徒がプレゼンテーションにおいても予想以上に意欲的に活動するようになった。

#### (2) 課題

- ① スピーチ原稿の校正に多くの時間を要したが、複文を駆使してより高度な英文を書く生徒は、ほとんどいなかった。今後、自由英作文の活動において、生徒全体の表現力を高めていく具体的方策を検討する必要がある。
- ② スピーチの間、聴く生徒はその内容を書き取った上に、評価する必要があったため、発表者の様子をしっかりと見る余裕がなかった。スピーチをしっかりと聴かせた後、評価する時間を保証するなど工夫する必要がある。

**D-1 スピーチ原稿(例)**